

平成 28 年 10 月 12 日

各 所 属 長 様

保健総務課長

## インフルエンザ注意報発令について

### 1 概要

那覇市では第 40 週 (H28/10/3 ~ H28/10/9) の定点医療機関からのインフルエンザ報告数は、1 定点あたり 11.17 人となり、注意報レベルの 1 定点あたり 10 人を超えました。

この時期に注意報レベルを超えるのは異例ですが、今後、さらに流行が拡大する恐れもあるため、注意が必要です。

那覇市における今シーズン(第 36 週 ~ 第 40 週 (H28/9/5 ~ H28/10/9)) の、現在までの累計を患者年齢別で見ると、60 歳以上が最も多く 21.7%、次に 10~14 歳が 19.3%、次に 15~19 歳が 12.1%、次に 30~39 歳が 10.7%、そして 5~9 歳が 9.3%となっています。高齢者と、小児から学生と、その子供たちの親世代で多い傾向です。

那覇市では第 40 週にひとつの高校で 2 クラスが学級閉鎖となっています。

那覇市における第 40 週 (H28/10/3 ~ H28/10/9) のインフルエンザ型別内訳は、A 型 121 人、B 型 0 人、不明 (臨床診断) 13 人です。

インフルエンザの流行状況については、感染症発生動向調査事業において那覇市内の 8 医療機関 (小児科 : 7、内科 : 5、合計 12 定点) の協力を得て、患者情報を週単位 (月曜から日曜) で収集し、全国約 5,000 カ所の定点情報と併せて分析し、市民及び医療機関に情報を提供しています。

感染症発生動向調査システム上の発令基準

流行の兆し	: 定点あたり 1 人以上
流行注意報	: 定点あたり 10 人以上
流行警報	: 定点あたり 30 人以上

### 2 インフルエンザの流行状況 : 別添 1

### 3 インフルエンザについて

潜伏期：1～5日間（平均3日間）

症状：突然の発熱（38～39 を超える）、頭痛、筋肉痛、全身倦怠感、  
喉の痛み、咳、痰

症状は通常1週間ほどで軽快することがほとんどですが、肺炎などを合併する場合がありますので注意が必要です。

感染経路：飛沫感染、接触感染

予防対策：次の“4 インフルエンザの感染予防対策”を参照ください。

### 4 インフルエンザの感染予防対策

手洗いやうがいの励行（特に外出後）

マスクの着用

バランスよく栄養を摂取し、十分な睡眠をとる。

室内の換気に気をつけ適切な湿度を保つ。

流行前のワクチンの接種

- ・インフルエンザワクチンは、ある程度の発症予防効果と重症化を防ぐ効果があると言われています。
- ・例年12月下旬～2月頃に流行のピークを迎えますので、ワクチンの予防効果を得るために、毎年12月中旬までにはワクチン接種を受けることが望ましいとされています。しかしながら、今年度は例年より早い注意報発令であることから、早めのワクチン接種をお勧めします。
- ・ワクチンの予防効果が期待できるのは接種後2週から5カ月程度と考えられています。
- ・今シーズン（2016/2017）のワクチンは、A/H1N1亜型（pdm09）、A/H3N2亜型（香港型）、B型（山形系統）とB型（ビクトリア系統）の4種類の流行株の型が含まれています。
- ・ワクチン接種の回数は、生後6カ月以上～13歳未満：2回、13歳以上：1回（または2回）

### 5 インフルエンザに罹ってしまったら

- ・安静にして休養をとりましょう。
- ・感染を広げないために、会社や学校を休むようにしましょう。
- ・インフルエンザ発症前日から発症後3～7日間は鼻やのどからウイルスを排出すると言われています。そのためにウイルスを排出している間は、外出を控える必要があります。
- ・基礎疾患のある方や重症化の予兆（意識障害・意味不明な言動・呼吸が早い・顔色が悪いなど）が出た場合は、速やかに医療機関を受診して治療を受けましょう。
- ・咳やくしゃみ等の呼吸器症状がある人はマスクを着用しましょう。
- ・咳やくしゃみをする時は、ティッシュなどで口や鼻を押さえ『咳エチケット』を守りましょう。

那覇市健康部 那覇市保健所 保健総務課  
担当：砂川昌太  
電話：内線 6053（098-853-7971）